

平成30年度 大阪府立牧野高等学校 第3回学校運営協議会 議事録

日 時 平成31年2月7日（木）15：30～17：00

場 所 大阪府立牧野高等学校 校長室

出席者 協議会委員 松宮 新吾（会長）、有堀 正彦（副会長）、交久瀬 義浩、尾崎 順子

（敬称略） 学校長 日笠 賢

事務局 小早川真一、石田 晓、大塚 正宣、中務 正和、勝村 久司

◎挨 捶 松宮会長より

学校が示す「学校経営計画及び学校評価」について、各委員からの意見を学校に寄せて、今後の経営に活かせる場としたい。また、その「学校経営計画及び学校評価」の『基本的な方針』を承認するという重要な役割を担っているので、よろしくお願ひしたい。

◎挨 捶 日笠校長より

お忙しいところお集まりいただいたことに感謝を申し上げます。本日の協議会でのご意見を今後の学校運営に反映させ活かしていきたいと考えておりますので、よろしくお願ひします。

1. 学校教育自己診断について

（学校教育自己診断の生徒・保護者・教員の結果である資料1～3に基づき、小早川教頭より報告）

○昨年と大きく変化したのは保護者による「教室以外の施設・設備生徒が良好である」に対する肯定的な回答が増えたことである。トイレを改修した影響だと考えられる。

○教員の自己診断では、「先を見据えた進路指導」「教室等の学習環境」「教室以外の施設・設備」「校内研修の内容と頻度」に関する4つの質問で肯定的回答が大きく増加した。全ホールーム教室への電子黒板の設置や理科教室へのエアコンの設置、トイレの改修等の効果が現れていると考えられる。

2. 授業アンケート（第2回）について

（授業アンケート結果を教科別・教員別に集計した資料4、5に基づき、小早川教頭より報告）

○授業アンケートの学校全体の平均値では、前回の1回目より下がった項目はなく、9つの項目の内3つで、0.05以上の上昇が見られた。特に3年生は全ての項目で上昇した。

○授業アンケートの結果を教員別に見ると、若い年代の先生が、ICT機器を使う頻度が高いことが影響しているのか、上位を占める率が比較的高くなっている。

3. 平成30年度学校経営計画及び学校評価（案）について

（資料6の「平成30年度学校教育計画および学校評価」に基づき、日笠校長より報告）

○生徒向け自己診断で「将来の進路や生き方について考える機会がある」への肯定的回答は、

前年度の 80%から 85%に向上したが、「キャリア教育に積極的に取り組んでいる」への肯定的回答は、75%から 72%になった。「キャリア教育」という言葉の意味が浸透していない可能性もあるが、引き続き、生徒に対する多様な機会の提供に努めたい。

- 学校教育自己診断における「牧野高校の授業はわかりやすい」に対する生徒の回答が前年度が 69%だったことを受けて、今年度は 72%以上にする目標にしたが、76%まで向上した。これは、電子黒板を設置した効果と教員の努力の結果ではないかと考えている。
- ICTを活用した授業を実施できる教員が、前年度が 59%だったことを受けて、今年度は 65%以上にする目標にしたが、電子黒板の設置により 80%まで向上した。
- 進路関係では、今年度初めて、1年生全員が GTEC を受験し、自由参加の京大と同志社大の体験入学に昨年の倍を超える 200 名以上の 1年生が参加した。2年生向けには国公立大学受験に向けた講演の回数を増やした。3年生は、5教科 7科目型でのセンター試験の受験者数が目標を大きく超えて増加した。
- クラブ活動と勉強の両立が十分にできていない生徒がいることがうかがわれる。クラブ活動に熱心に取組ながらも、「勉強をしなければいけない」という思いが強まっていることの現れかも知れないが、クラブ活動の見直しを進めていくことも必要だと考えている。

4. 質疑応答・意見交換

(副会長) クラブと勉強の両立が課題である、と考えている生徒が多いという数字は、逆に生徒たちのモチベーションの現れではないかと思う。ただ、進学希望の多い牧野高校において、クラブ活動をどのように位置づけていくかということは課題だと思う。

(会長) 学校教育自己診断の集計を見ると、保護者では 25 項目の内、「部活動と学習の両立」の 1 項目、生徒では 32 項目の内、「予習、復習」「進路資料室の利用」「部活動と学習の両立」「奨学金手続きの説明」の 4 項目において、最も低い評価が 10 %を少し超えている。それ以外が全て一桁であることから、これらが課題と言えるのではないか。

(校長) 「部活動と学習の両立」「予習、復習」は課題であると認識しており、プロジェクトを立ち上げ、改善に向けて検討を始めている。

(教頭) 「進路資料室の利用」は主に 3年生が利用し、「奨学金手続きの説明」は、主に 3年生に説明することになるが、それぞれ、全学年の生徒にアンケートをしているために、このような結果になっていると考えられる。学校教育自己診断の集計では、逆の見方をすると同様に、最も高い評価がほとんどの項目で二桁になっている中で、一部、一桁になっている項目があり、それらも課題として認識して改善に取り組んでいきたい。

(会長) 教員の学校教育自己診断では、「教職員間の相互理解に基づいた教育活動」の項目が一桁になっているので、そのあたりの改善にも取り組んでいただけたらと思う。

(委員) 年末の餅つき大会は非常に良かった。生徒たちは気分転換がでけて、みんなが笑顔いっぱいいで「おいしかった」と言って喜んでいた。PTA としても、餅つき大会をはじめ、体育祭の給水や、後援会への加入者を増やす取り組みなど、楽しい学校やよりよい環境のための協力を続けていきたい。

5. 平成31年度学校経営計画及び学校評価（素案）について

（資料7の平成31年度学校経営計画及び学校評価に基づき、日笠校長より説明）

- 中期的目標については、「教員が定的にICTを活用した授業を実施できる」と「生徒がICTを活用した授業が多いことを実感できる」が共に2020年度までに80%以上になることを目指していたが、今年度、共に達成できたので、2021年度までに85%以上、と上方修正した。
- 中期的目標の「授業の予習、復習」については、これまで肯定的回答の増加を目指してきたが、今年度からは「できていない」と回答する生徒の割合を5%以下にする、という目標に変更した。
- 課題となっている学習と部活動の両立については、これまで75%以上を中期的目標としていたが、なかなか65%を超えることができない状況から、現実的にまず70%を目標とした。
- 本年度の取組計画や評価指標については、資料に記載の通りだが、新たに、教職員研修の充実や授業力向上を目指し、「New育成支援チーム事業」か「パッケージ研修支援」への応募体制を整備することを加えた。
- 「ノークラブデー」の実施の徹底など、実行性のある働き方改革をすすめていきたい。

6. 協議

- （副会長）学校経営計画に書かれているように少しずつ%を上げていっていただけたらと思う。一方で、教職員の勤務時間の縮減などにも取り組んでいただき、教職員が疲弊してしまうことがないようにお願いしたい。
- （会長）高大接続改革や学習指導要領の改訂などにどのように対応しているか。
- （校長）新学習指導要領に向けては、総合的探究など、それぞれの改革テーマ毎にチームを作り具体的な検討を進めてもらっている。e-ポートフォリオについては、いつでも電子的に対応できる形を作った上で紙ベースでの記載をさせている。英語の外部検定については、来年度から1,2年全員がGTECを受験する。
- （会長）学校教育計画についてご承認を頂く、ということでおろしいでしょうか。それでは、少し、進路関係の細かな数字で未定の部分がありますが、ご承認をいただきました。ありがとうございました。
- （事務長）最後に、施設整備について、資料8にありますように、PTA、後援会、同窓会から、色々とご提供いただき、ありがとうございました。
- （会長）トイレがきれいになったことは本当にいいことですね。多目的トイレは性についての配慮もされているのでしょうか。
- （事務長）多目的トイレは、誰でもが使用できるように対応しております。
- （校長）トイレ改修には4000万円かかりました。また、先日、体育館にエアコンを入れるという話が報道されましたが、まだ正式な話は何もなく、詳細はわかつていません。

◎挨 捷 日笠校長より

ご承認いただきありがとうございました。今年度はこれで最後ですが、次年度
以降も努力して参りますので、引き続きよろしくお願ひします。